

2007 年度 4 年生から後輩へのメッセージ

1. 後輩に薦める科目の取り方とその理由
2. 後輩に薦める勉強方法
3. 後輩に薦める卒論の進め方
4. 後輩に薦める本とその理由
5. 後輩に薦める就職活動のしかた

1. 後輩に薦める科目の取り方とその理由

- ・ 1～3年の間に頑張っておいたほうが、4年生で卒論に時間を費やすことができます。（地文：小野田香）
- ・ 1・2年次にできるだけ多くの授業をとって、3・4年次は資格取得や就職活動に費やすとよい。（環境：蛭沢政人）
- ・ 3・4年次に就活・卒論に集中するために、1・2年次にたくさん単位を取る。（環境：匿名希望）
- ・ 1、2年生のうちには可能なかぎり単位をとっておくと、3年では自分の興味があることに力を入れたり、4年では卒論に集中することができてよいと思う。（環境：ルー）
- ・ 専門教育科目でない教職科目や一般科目は、1～2年のうちに終わらせる。そうしないと、3～4年になって、自分の興味のある科目とかぶることがある。（地文：とよさん）
- ・ 1・2年生のうちには、フル単位を確実にとることに重きを置くべし。3・4年生になると、知識の幅を広げるためにも、積極的に随意科目でも興味のある科目は学ぶべき。特に博物館講座は、大変な分だけ学ぶことは大きいので、お勧めします。（地文：510）
- ・ 4年次には、地理学演習と卒論のみにしたほうがよい。卒論に集中できる。（地文：匿名希望）
- ・ 4年の卒論が、他学科よりもかなり足で資料を集めることになるので、3年までに単位はある程度取り終えたほうがよい。教職や資格は、取るかどうか悩む程度なら、取らないほうが吉。過度に詰め込んだスケジュールは、精神を病む以外の結果をもたらさない。（地文：紫の兎）
- ・ 教職は楽に取れるものではなく、授業数が多くて本当に大変。学科の授業、サークル（部活）、バイト、教職をやりながらの課題は徹夜もしばしば。就活の内定時期と教育実習も重なるので、本当に自分にとって必要なかを考え、軽い気持ちで取らないほうがよい。（地文：佐々木瑠郁）
- ・ 教職は、きびしい科目数をこなさないともらえない免許なので、しっかりやること。（環境：本田紗美布）
- ・ 教職は、強い気持ちを持って臨まないと、挫折してしまうかもしれません。（地文：D. M）
- ・ 教職や資格取得のための単位は、早めにとったほうがよい。3、4年になると忙しくなるため。（環境：匿名希望）
- ・ 1年時の必修科目で気に入った先生を見つけて、その先生の授業を取るようにすると、授業内容も分

かりやすくなる。(地文：高田佳代子)

- ・半期の実習の科目は、卒論で役に立ちます。(環境：匿名希望)
- ・科目をつめすぎない。1日、なるべく3時間程度におさえるのがよいと思う。それ以上とると、ボーッとしてしまい、頭に入らない。(地文：トム)
- ・なるべく時限を連続して履修したほうがよい。間の時限を有効活用できなかったことが理由です。(地文：W・O)

2. 後輩に薦める勉強方法

- ・授業は休まないください。駒大の多くの授業(先生)は出席を重視しています。(地文：匿名希望)
- ・テストは難しいものが少ないので、出席し話を聞けば、充分理解できる。ただし、授業に出ないと、テストでは分からなくなる。(地文：匿名希望)
- ・授業時間内に、その日学んだことを完全に理解するようにする。(地文：匿名希望)
- ・ノートをしっかりとること。後で読み返しても理解できるようにまとめておくことが大切だと思います。(地文：ともこ)
- ・まずは授業をしっかりと前の席にかじりついて聞き、ノートをとっておくこと。一度しっかりと聞いた内容なら、ノートが走り書きのようなものでも、復習の際、簡単に思い出せる。(地文：紫の兎)
- ・授業中に先生が言った重要なことは、必ずメモすること。テストは持ち込み可が多いが、板書を写しただけでは解けないので。(地文：匿名希望)
- ・授業では、レジュメ以外にも先生が話していることによく耳を傾け、メモをとる。それぞれの科目ごとにまとめノートを作って、後で勉強し直す時に役立てた。(地文：510)
- ・授業が終わった後、次の授業の日までに、前回どのような内容を勉強したか見直しておく。(環境：蛭沢政人)
- ・授業内容で気になったところ等をHPで調べ、補う。写真を貼る等。(環境：匿名希望)
- ・課題も多く出されるので、分からない時は研究室に通い、先生に尋ねてみるとよいです。早いうちに顔を覚えてもらえれば、卒論製作時も力になってもらえるでしょう。(地文：D. M)
- ・インターネット、特にウィキペディアにはあまり頼らないほうがよい。公共機関の統計や条例程度にとどめておくこと。ウィキペディアは、リンクを利用する程度には役に立つ。(環境：上野啓佑)
- ・往復の電車内で2～3時間無駄にするのはもったいない。携帯のメール機能でレポートを書いたり、授業の予復習や読書に使う。(地文：とよさん)
- ・イラストレーター等、地理学科はパソコンで大変なところがある。それを独りで頑張ってもいいが、特研4で分かる人に聞いたら、すぐ分かたりするので、ぜひ人にすぐ聞いてください。(地文：匿名希望)

3. 後輩に薦める卒論の進め方

- ・ 論題は無限に存在するので、決めるのに少々苦労します。普段から気になっている所（土地）に場所を定め、そこから話題を見つければよい。ただ、調査地が遠方になると、時間や費用の制約を受けるので要注意。（地文：匿名希望）
- ・ 調査地域は、できれば自分の地元または馴染みの深い場所、自宅からのアクセスがいい場所がよい。調査地域が遠いと調査が大変であるし、再び調べたいことがあって、もう一度調査地域に行くことも、かなり大変になるからである。（地文：小澤祐介）
- ・ 調査地域は近めを設定したほうが、調査し忘れたことがあっても再調査しやすいのでおすすめです。（環境：蛭沢政人）

- ・ 5月くらいからは始めたほうがいいです。下調べが重要です。（地文：emiru）
- ・ 作業は夏からでも間に合いはするが、十分なものにならないことも多い。できれば5月・6月くらいから、下調べくらいは済ませたほうがよい。（地文：紫の兎）
- ・ 事前調査をきちんとやること。そうしないと意外と書けない。（地文：スギモト）

- ・ 夏休みに現地調査を終えられないと厳しい。そのためには、やはり4年になってすぐ、論題や調査地域を決めてしましましょう。（地文：吉田耕一郎）
- ・ 夏休み前から早めに準備をして、アンケートなどは夏休みにできれば、ゆとりを持って分析できると思う。（地文：さめ肌）
- ・ 地理は現地調査があるので、夏休み中にデータは完璧にそろえておく。秋からは計画的に書き始められるようにしておいたほうがよいと思う。（地文：佐々木瑠郁）
- ・ 調査は、できる限り多くの時間、対象地域へ足を運ぶとよい。テーマを持って街やフィールドを歩くことは、それだけで多くの情報を得ることができる。（地文：匿名希望）
- ・ 調査地の人と接点を持つこと。人から人へとつながり、いろいろな情報が得られます。（匿名希望）
- ・ 実際に自分でデータをとったほうがおもしろい。ex. 温度観測 （環境：花園千広）

- ・ 執筆していくうちに疑問点や調査不足な点を見つけることもあるので、早い段階から調査を始め、余裕を持って執筆作業に入るといいと思います。（地文：ともしこ）
- ・ グラフを作ってから、それを説明する形で書いていけば、そんなに大変ではないと思う。調査や資料集めは早めに行ったほうがよい。（地文：匿名希望）
- ・ 絶対どんどん直したくなるので、早めに仕上げて見直していくのがよい。（環境：匿名希望）

- ・ 先生のところは頻りにアドバイスをもらいに行く。（環境：K. F）
- ・ 先生のもとには、よく訪れるべきでした（自信がなくても）。（地文：匿名希望）

4. 後輩に薦める本とその理由

- ・中村和郎・高橋伸夫編『地理学への招待』古今書院、1988、2625 円（税込、以下同様）
理由：ちゃんと読めば、基本的なことは理解できる・・・と思います。（環境：横井時宏）
- ・『地理学がわかる。』朝日新聞社、1999
理由：広い範囲のことがうまく要約されている。（地文：本多遼平）
- ・浮田典良『地理学入門 新訂版』大明堂、2003、原書房、2004、2310 円
理由：地理学科の転部試験のために読んで、専門科目の試験の役に立ちました。（地文：山上紗南恵）
- ・水越允治・山下脩二『気候学入門』古今書院、1985、2625 円
理由：天気の基本的事から応用まで、分かりやすく解説されています。（環境：細川弘一郎）
- ・気候影響・利用研究会編『日本の気候Ⅰ』二宮書店、2002、2800 円、同『日本の気候Ⅱ』二宮書店、2004、3200 円
理由：気候をやるなら読んでおきたい。（環境：K. F）
- ・宇多高明『日本の海岸侵食』山海堂、1997、同『海岸侵食の実態と解決策』山海堂、2004
理由：海岸侵食について調べる際、とても参考になった。（環境：匿名希望）
- ・日本建築学会編『東南・東アジアの水』日本建築学会、2000、3780 円
理由：卒論を進める際に一番よく読んだ本です。とても役に立ちました。（地文：工藤美乃莉）
- ・武田邦彦『環境問題はなぜウソがまかり通るのか』洋泉社、2007、1000 円
理由：普通の環境問題に関する本と違った視点で書かれている。そのため、今まで知らなかったことが分かり、自然地理の分野の勉強に役立つ。（地文：トム）
- ・『なるほど知図帳日本』（年刊）、昭文社、1680 円、『なるほど知図帳世界』（年刊）、昭文社、1680 円
理由：入門書として。各地の名産品など雑学的なことも多数載っており、気軽に読める。（環境：上野啓佑）
- ・千野信浩『図書館を使い倒す！』新潮社、2005、714 円
理由：資料探しに役立つと思います。（地文：ともしこ）

- ・三浦展『下流社会』光文社、2005、819 円

理由：これを読むと、頑張ろうという気になる。(地文：秋山智俊)

- ・市史や県史

理由：その土地の歴史や文化の情報がほしい場合、へたな資料よりも詳しい情報を得られることがある。(地文：紫の兎)

- ・雑誌『第四紀研究』日本第四紀学会、雑誌『地理学評論』日本地理学会

理由：授業で扱った内容が詳しく書かれている論文が見つかることが多い。(匿名希望)

その他

- ・地理用語研究会編『地理用語集』山川出版社、2004、859 円 (地文：上妻美由紀)
- ・桜井善雄『川づくりとすみ場の保全』信山社サイテック、大学図書(発売)、1890 円 (環境：社南っ子)
- ・三浦展『ファスト風土化する日本』洋泉社、2004、798 円 (地文：さめ肌)
- ・井上史雄『変わる方言 動く標準語』筑摩書房、2007、735 円 (地文：さめ肌)

5. 後輩に薦める就職活動のしかた

- ・できるだけ早くから(大学3年生の9月、10月ごろには)始めたほうがよい。まずは履歴書の内容(自己紹介書の部分)を書いてみて、キャリアセンターの方や両親、友達、いろいろな人に添削してもらう。次に、合同企業説明会や学内説明会に積極的に参加して、興味のある企業を探す。とにかく、早くから就職活動を始めることが大切である。(地文：小澤祐介)
- ・年明け前から始める。3月は休みなしの覚悟で。(地文：Ness)
- ・2月~3月の間に、ほぼ毎日、説明会に行き、数をこなす。(匿名希望)
- ・行きたい業界が決まっている人は、その業界が動き出す時期に動き始めればいいが、決まっていない人は、とにかく早くいろいろな業界を見るべきだと思う。(地文：下藤香織)
- ・会社にもよるが、早期エントリーをすると、1次面接が免除になる会社もあるので、おすすめです。(環境：蛭沢政人)
- ・SPI対策は早めにする。(地文：匿名希望)
- ・新聞を早くから読んで、日本や世界のことについて知っておくべきだと思う。(地文：匿名希望)
- ・夏までに終わらせないと、スーツ、まじ暑いよ。(環境：匿名希望)
- ・自己分析はちゃんとしたほうがいい。自分のやりたいことを見つけることが一番大事だと思う。(地文：山上紗南恵)

- ・自分が何をしたいのかという自己分析をしっかりすれば、おのずと結果はついてくるものです。(環境：平山浩太)
 - ・どんな仕事をしたいか、まだ明確でない方は、まず自分の好きなこと(趣味など)をきっかけに探してみたらよいと思う。そして、それを仕事として考えられるか判断する。(匿名希望)
 - ・自己分析はしっかりやるべき。面接でも、あとのためにもなる。業界・企業分析は幅広くしっかりやる。自分の選択肢が広がる可能性もある。(地文：510)
 - ・就活も卒論も早ければ早いほどよいです。企業研究はしっかりとし、自分がなぜその企業で働きたいのか、自分というものを明確に把握してから受けるとよいです。(地文：D. M)
 - ・はじめに、どんな職に就きたいかをはっきりさせる(大型セミナーなど)。職種を決めてしまえば、あとは楽。(地文：高田佳代子)
-
- ・今は売り手市場なので、様々な企業を見たほうがよいと思います。新卒の時しか、いろいろな業種・企業を見られないのでチャンスです。ひとつ内定がもらえたからといって、そこで終わらせず、多くの企業にチャレンジしてください。(環境：細川弘一郎)
 - ・学科の内容に関係なく、いろいろな企業を受けてみるとよいと思う。3年の時にある演習・調査法の授業は貴重な体験になり、就職活動に役立った。(地文：匿名希望)
 - ・自分の行きたい業界が自分に合っているとも限らないので、いろいろ見て回るのもおもしろいが、行きたい業界があるなら、どんなに落とされ続けても、絶対にあきらめないで頑張ること。(地文：佐々木瑠郁)
 - ・はっきりした志望動機が書ける(言える)業界内の多数の会社に応募したほうがよい。キャリアセンター等ではいろんな会社を受けるよう言われるが、動機が確実でない所からは振り落とされ、後の就活に悪影響を与えます。(地文：匿名希望)
 - ・ホームページを見るよりも、実際に見に行く。(地文：本多遼平)
 - ・説明会に足を運んで情報収集したり、会社の雰囲気を感じることが大切だと思います。(地文：ともこ)
-
- ・ハキハキとしゃべる。高めのトーンでしゃべる。あいづちをうまく入れる。よく笑う。失敗にくじけず、プラスにとらえて成功につなげる。(地文：吉田耕一郎)
 - ・欠点や痛いところをつかれても、必ず、そこから何を学び、次にどう生かすのかを発言する。(地文：匿名希望)
 - ・誰に何を言われてもあきらめないこと。落ちたら落ち込んで、次の日にはその悲しみをバネに強くなるので、自分へのごほうびも忘れずに。(地文：上妻美由紀)
-
- ・地理学科は、「めずらしいね」「何を勉強しているの?」と興味を持たれることが多い。自分が学んでいることを説明できるように、早めに準備が必要。(地文：下藤香織)
 - ・「地理学科ってどんな勉強するの?」と、就活の面接でもよく聞かれるので、ちゃんと答えられるよ

うに。(地文：吉田耕一郎)

- ・就活で必ず「地理学科って何やるの？」って聞かれる。(地文：ホルヘ・リナレス)